

*** 東京天文台百年記念誌資料ーその2-22-4ー東京天文台年表(昭和14~23年)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞346号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその1ー」、349号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその2ー」、353号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目をーその1ー、2箱目をーその2ー、3箱目をーその3ーとしたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかってにピックアップして書いている。今回は2箱目の22項目について報告したい。第349号のリストには、29項目のリストがあり、それぞれの項目に更に多いものは46件のサブリストがある。今回は東京天文台の年表についての資料を記事にしてきたので、2箱目の関連資料をつまみ食いすることにした。2箱目の22項目目に、

22) 大正元年~昭和23年と書かれた封筒 年表の原稿 39~84ページ

とある。今回は、この原稿のP72(昭和14年)~P86(昭和23年)までの年表を載せる。

この間の主な事項には(筆者が勝手に行間調整のため選んだ)

- 1) 昭和14年: 東京天文台で光電管による天体光度の測光が開始(主任大沢清輝)
- 2) 昭和14年: 太陽の分光学的観測、ドップラー効果による太陽赤道部の自転速度測定(長沢、斉藤)
- 3) 昭和14年6月27日: 関口鯉吉台長 文部省学術局長に転出し、16年3月31日まで福見尚文が台長事務取扱、その後、再び関口台長となる
- 4) 昭和15年: 東京天文台でツァイス自記測微光度計、ジョバン分光器、ヒルガー水晶分光器、ソシエテ・ジュネヴォアズ閃視測微計等を備付
- 5) 昭和15年: 学術研究会議が天文学及地球物理学邦文輯報を発行
- 6) 昭和18年: 水路部で天体位置表を刊行(以後年刊)
- 7) 昭和20年2月8日: 東京天文台本館焼失
- 8) 昭和21年9月: 関口鯉吉台長9月30日停年退官、萩原雄祐教授台長就任
- 9) 昭和21年: 国会を経ず、閣議決定により夏時刻法はじめて制定採用
- 10) 昭和22年4月19日: 萩原雄祐が4月19日の日本天文学会総会で“今後の日本における天文学の動向”を講演
- 11) 昭和22年: 日本天文学会で機関紙“天文月報”を第40巻より再刊
- 12) 昭和22年: 天文短篇報告“ブレチン”第2輯発刊
- 13) 昭和23年: 三鷹国際報時所を合併
- 14) 昭和23年: 報時室の新築なり分秒報時(JJY)正式放送を8月1日より開始

昭和	要	項	出	巻	号	No.
14 (1939)						
14 2	天体物理学討論会, American Philosophical Society と Franklin Institute との協同主催で「最近の天体物理学の進歩」に用いた討論会がひらかれた。本国の現在最も活動している 10 名の天文学者が各々報告した。		月. 33-3, p.50, 2215, 1940			9018
14	昭和 14 年度より 文部省科学研究費の配付を受けることになった。		学術大観	p.495		12041
14	天体物理学の研究に付し、文部省科学研究費の配付に付した。		科学史研究	才17号		18372
14	東京天文台の光電管による天体光度の測光が開始(主任大塚清静)		科学史研究	才17号		18373
14	広瀬秀雄が Kofu 周期彗星を独立の再発見		科学史研究	才17号		18375
14	広瀬秀雄が小惑星 1939 BM を発見		科学史研究	才17号		18374
14 - 15	太陽の分光学的観測. ドッラー-効果による太陽赤道部の自転速度測定(長沢、斎藤)		学術大観	p.514		12019
14	変光星の発見. 昭和 14 年末 変光星観測 8254 個の中、本学関係の観測は 5 個		学術大観	p.531		12011
14	職名 (昭和 13 年 11 月のついでに) 台長(事務取扱) 福見博文		東京帝国大学一覽	昭和 14		16082
14 10. 15	石井重雄 死去 39 才. 天文台助手 → 中央气象台技師, 理士等. 明 30. 6. 16 広島県 豊田郡生, 広島県 忠海中学校, 才八高等学校 理科甲類卒. 大. 14. 3 東京帝国大学理学部天文学科卒, 14. 6 東京天文台 助手に任ぜられた. 昭 11. 5 理学博士の学位授与. 昭 14. 10 中央气象台 技師に任ぜられた. 日月食の推算に没頭 吊詞 平山清次, 略歴 辻光之助 写真あり.		月. 32-12, p. 214, 2214, 2215, 1939			12
14	石井重雄が 10 月 15 日に死去。(明 34 年生 前東京天文台助手, 中央气象台技師, 位置天文学に業績)		科学史研究	才17号		18376
14 6 27	南口は文部省 学務局長に転出し, 16 年 3 月 31 日付で 福見博文が 台長事務取扱となり, その後再び南口台長となる		天文台 100 年 特号			

昭和	要 項	出 典	カドNo
15 (1940)			
15 10 1	岡林滋樹の彗星発見は10月1日	科学史研究 才18号	18380
15 10 4	岡林滋樹・本田実(以に素人天文家)が10月4日獅子座に 岡林・本田彗星を発見	科学史研究 才17号	18379
15 10 8	天皇陛下が本学に行幸。東京天文台の研究業績も御覧にまつた	東京大学一覽 昭40-05	16038
15	東京天文台の事業が整備: レゾソルト5年儀器並にコーチ子午 環による天体の位置の測定, フラッシュ-天体写真儀に よる小惑星・彗星等の位置の測定及び捜査, 彗星捜査儀に よる彗星・新星の捜査及び変光星の光度の定規観測, 65cm 大赤道儀による星図の測光, 分光学的研究 20cm赤道儀 及び太陽写真儀による太陽面諸現象の観測, 塔望 遠鏡による太陽の分光学的研究, 理論的解析, 軌道 論, 月食及び掩蔽の予報	科学史研究 才17号	18377
15	東京天文台でツァイス自記測微光度計, ジョバン分光器, ヒルガー 水晶分光器, ソシテ・ジュネウアス閉視測微計等を備付	科学史研究 才17号	18378
15	学術研究会議が天文学及地球物理学部文輯報を登刊	科学史研究 才18号	18381
15	京師大学 理学部 宇宙物理学教室にて Kwasan Observatory Circular 発刊	科学史研究 才18号	18382
15	職員募集 資格 昭和14年又は15年 中等学校(男女)卒業者 待遇 臨時雇, 日給1円以上, 昼間又は夜間通学の 便利。(男子は構内宿舎に居住し得) 希望者は5月10日迄に到着する本署自筆履歴書及び健康 診断書各一通本台事務室宛提出のこと。査衡に 因しては追って通知す。 東京府北号席郡三階町 (中央線 武蔵境駅又は京王電線上原駅 下車) 東京天文台	月. 33-5 昭統紙 0215(1940)	534

昭和	要	項	出	典	ク・N。
16 (1941)					
16 1 21	本田 実(倉敷天文台技師)が1月21日にとけけ座にフレンドリー・ス・本田彗星を発見		科学史研究 才17号		18386
16. 1. 31	河合章二郎死去 元東京天文台技師、病歿。明18.12.陸明37.3 和立商工中学卒、明治45.2 東京物理学校理化科卒、今5月 東京帝国大学理科大学歴科卒、7月 逓信省嘱託(無線電信に於ける時刻通報事務)大正5月理科大学助手。大正6.9 鳥島 管轄局 故郷足尾通及と共に出張。10.11月 東京天文台技師。14.3 依願免官。月報執筆論文あり。天文台に於て主に観測部に携わり、ことに報時事業に熱心。(小川清彦記)		月. 34-5, p. 89 0216 (1941)		13
16 2. 17	蘆野敬三郎が死去(慶応2年生、航海天文学の研究及び日本天文学界の開設に業績)		科学史研究 才17号		18389
16. 4 30	橋本昌英 4月30日 停年退職。明38年 東京帝大理科天文学科卒業。同大学助手として麻布の天文台で天体観測に従事。後監督時代の我国天文学の発展に力を尽す。各地の経緯度測定に主役をとりつゝ。明40. 水沢緯度観測所 技師として奉職。即ち橋本博士を補けて同所の事業に多大の貢献。大正8 欧米に留学。星地天文学に關する研究。帰朝後 東京天文台技師。三鷹村に移つたばかりの同台施設の整備に當り、代りの台長を補つた。時刻観測及び報時事業、星の子午線観測に力を尽す。水沢時計は橋本氏の発案。		月. 34-7, p. 125 0216 (1941)		535
16 8 25	堀 懐次 死去(旧姓 須見)元 東京理学部助手兼東京技師。病の故の急逝 42才。明33.2.14 生。大正7.3. 山形県庄内中学卒。鉄道院勤務。大正7 東京天文台入台。大正10.11. 東京理学部助手兼 東京天文台技師に任ぜられ 主として編曆事務に携わり、昭12 秋頃より健康衰す。昭15.3. 依願免官、その健康回復 昭16.6 仙台 東北帝大理学部天文学教授(小川記)		月. 34-11, p. 182 0216 (1941)		14
16. 9. 21	皆既日食。天文・地球物理学者が琉球列島・台湾北部・及那東部に出張観測 (同日公報。100年昭12年)		科学史研究 才17号		18388
16 9 21	9月21日の皆既日食観測の計画 中心帯の中より台湾北端、石垣島を通る皆既日食。東京天文台---岡口台長主任、及川技師、奥田、虎尾、斎藤、大沢、下保技師、竹田、教野の諸氏。石垣島に出張観測。(i) コロ分先儀 岡口、奥田。(ii) コロ分細隙分先儀 及川、斎藤。(iii) 光電装置による観測 大沢。虎尾、下保技師は石垣島の経緯度測定にあたり予定		月. 34-9, p. 153 0216 (1941)		5034

昭和	要	項	出	典	カ+No.
16 (1941)					
16	学士院にて明治前日本科学史編纂に着手, その一部として 天文学史は主任平山清次, 校 平山信, 萩原雄祐に託す つぎ 昭和25年月見稿す。		科学史研究才18号	18384	
16	京大附属生駒山天文台が竣工		科学史研究才17号	18383	
16	東亜天文協会の田上天文台が落成(台長山本一清, 左滋賀 果田上村, 日本最初の私設天文台)		科学史研究才17号	18385	
16	東亜天文協会21紀要を院刊		科学史研究才17号	18390	
16	鹿島文理科大学で波動幾何学による宇宙論を研究		科学史研究才17号	18387	
16	勅令(政令)による人事, 技師7, 技手12		天文台関係法令集	140/0	
16	職員 (昭15と果台3人) 台長 関口豊吉 技師 中野三郎 (昭.37.12.24)		東京帝国大学一覽 昭16	16083	
16 12. 8.	太平洋戦争開戦		天文台100年1941年号刊		

昭和	要	項	出	典	カ+No.
17 (1942)					
17.	東京天文台で取者座乙星を光電観測及4"分光観測		科学史研究才17号	18392	
17 11 11	祖父江久仁子・黒岩五郎・中森千秋・金森丁吾が11月11日 彗星新星を独立発見		科学史研究才17号	18393	
17	京大宇宙物理学教室 荒木俊馬編: 天文・宇宙物理学叢報 が院刊		科学史研究才17号	18394	
17	生駒天文協会が創立(本部は京大生駒山天文台)		科学史研究才17号	18391	
17	職員 (昭16と果台3人) 技師 石塚秀雄		東京帝国大学一覽 (昭17)	16084	
17	本台の天体観測 中日々延った業務 時刻測定, 恒星及惑星の赤緯赤経測定, 彗星実視観測 星の位置, 光量及光度の写真的観測, 太陽光焰 実視観測, 太陽面現象の単色撮影, 太陽黒点の写真的 実視観測 日食探検を行つたこと... 太陽 恒星及惑星の分光学的観測. 彗星搜索		東京帝国大学一覽 (昭17)	16053	

昭和	要	項	出	典	カードNo
18 (1943)					
18. 2. 5	2月5日に北海道で皆既日食。札幌、旭川、釧路へ各観測隊が出張観測		科学史研究 才17号	18395	
18. 2. 5	北海道厚岸皆既日食成功 (図はり)		天文台100年100年表 27		
18. 2. 5	2月5日皆既日食観測のため、五味一明、金杯丁吾が満洲国中央観象台 神田清等と共に満洲国東部へ出張観測		科学史研究 才18号	18396	
18. 2. 5	昭和18年2月5日皆既日食 - 北海道 i) コロトの分光測光 ii) コロトの分光観測 iii) コロトの偏光測光観測 iv) 光電装置に依るコロトの測光と太陽周縁輝度分布の測定 v) コロトの写真観測		月. 36-1, p.10, 昭18 (1943)	5035	
18	水階部が天体位置表を刊行 (以後年刊)		科学史研究 才18号	18403	
18	オーストリア大戦開戦最初の改訂天文資料を入手 (彗星・新星に関する国際天文電報中央局の回報)		科学史研究 才17号	18397	
18	勅令(政令)による人事 18年1月30日 授師 8, 授予 14 18年11月22日 " 9, " 16		天文台関係法令集	14010	
18. 1. 3	森川一雄の死去 (明治36年生。台湾總督府気象台技師。彗星・日食の天体写真研究に業績)		科学史研究 才17号	18398	
18. 1. 3	天文台技師台北気象台技師 理学士森川一雄死去、台北にて急逝 脇千つ。写真論文題目目録。悼辞 鈴木正次氏。 明治36.2.19 誕生。中ハ高等学校理科甲種経. 大. 12. 4 東京帝国大学 理学部 天文学科入学。大. 15. 3卒業。東京帝国大学助手兼東京天文台技師。天文台に12年勤めた後 昭13. 1. 台湾總督府技師として台北気象台に赴任。天文台では彗星観測から、天体写真観測に転じ、小惑星観測、日食観測... ロ-ソフが島、北海道など、台北気象台では航空気象方面担当 天文観測方面南拓。		月. 36-5, p. 59, 昭18 (1943)	15	
18. 1. 17	川崎俊一が死去 (明治29年生。前水沢大観測所長。木村榮の研究を継承して彗星の研究に業績)		科学史研究 才17号	18399	
18. 4. 8	平山清次が4月8日に死去 (明治7年生。東京名譽教授、天体力学 特に小惑星の統計的研究に業績)		科学史研究 才17号	18400	
18. 4. 8	平山清次死去 年表刊。研究論文リスト 平詞 藤原雄祐 幸田惣造。 明. 30. 7 大正卒業 明. 40 改 ~ 大正末 大正宮曆 編纂 大. 5 相模川 フラウン 教授に会い、小惑星の発見		月. 36-6, p. 65, p. 72 昭18 (1943)	16	

昭和	要	項	出	典	号No.
18 (1943)					
18.	天. 8. 寺尾放換還官後. 教授となり, 星学オー講座主任 照. 10. 定年退官 天. 14. 寺尾教授のあと, 帝国学士院会員. 万国天文学会 ケンブリッジ第2回総会に出席. 改訂の天文台視察 照 7. ハーバード大学, オ4回 総会出席 メーン川 皆既日食観測, 帰途南阿の 天文台視察.				
18. 8. 30	太平洋戦争中ジャワ島が軍政下に置かれたから, レンバン天文台と ロバはれ, 従来のホーテ博士に代り官地の台長に. 観測は 緯度, 時刻, 連星の3種, 時報の送受, 日食暦, 恒星高度方位表など 軍からの要望にも答え協力. 1945年終戦 デーの散逸.		月. 68-10. p. 319. (8250)		9022
18. 9. 26	木村 榮が 9月26日に死去 (明治3年生. 緯度変化に 関する2項の発見者)			科学史研究 才17号	18401
18. 11. 26	隈本有尚が 11月26日死去 (明治元年生)			科学史研究 才18号	18402
18 8 30	太平洋戦争中ジャワ島が軍政下に置かれたから, レンバン天文台 とロバはれ. 従来のホーテ博士に代り, 官地の台長に. 観測は 緯度, 時刻, 連星の3種, 時報の送受, 日食暦, 恒星高度方位表など 軍からの要望にも答え協力, 1945年 8月終戦デーの散逸.		月. 68-10. p. 319. (1975)		9022

昭和	要	項	出	典	号No.
19 (1944)					
19.	勅令(政令)による人事 授師 11, 授子 19.			天文台関係誌令集	14010
19	水路部刊行航海年表2分冊し. 以後天測暦, 航海暦と改称す			科学史研究 才18号	18404
19	東大 天文学教室の空襲を避けて長野県上諏訪に疎開			科学史研究 才17号	18405
19	天文台合室を理学部天文学教室(恒星視位置計算のため), 神戸海洋 气象台(非常の際, 時刻測定と報時発信を主とした)に遷す共に. 水沢緯度観測所, 气象台併用地磁気観測所: 一部疎開.			天文台100年 40年表より	

昭和	要	出典	頁No
20 (1945)			
20 3 5	東京天文台本館、便所、液廊下等を焼失	東京大学一覽 昭44-48	16037
20 2 8	本館全焼 (早晩 100年時年表)	東京大学一覽 昭18-27	16064
20 2 8	本館焼失	科学史一覽 昭30-33	16002
20 5 25	米機空襲により東大天文台教室の施設を焼失	科学史研究 才17号	18406
20 6 2	平山信の死去 (慶応3年生、才2代東京天文台長、日本天文学界の建設に業績)	科学史研究 才17号	18407
20 6 2	平山信死去 平辞 東京天文台長 敬啓 雄祐 記(昭22.3.2) 明治元年9月9日生。 明治21年 東京帝國大学理科大學星学科卒業。 23年 留學生として Greenwich で Huggins につく。 教員月後、天体物理学の勉強のため Potsdam へ移る。 28年 帰国後、東京帝國大学工學部天文台の教授に。 同時に、東京天文台長 寺尾 寿氏の助け、麻布天文台の經營に努む。 大正8年 寺尾氏の後、東京天文台長に。 寺尾前台長の遺志を継ぎ、三鷹村に規模の大きい天文台設立はかる。 大正11年天、新官制発布。 大正13年に三鷹町に東京天文台の本館を移轉。 塔型望遠鏡、26吋 大赤道儀の設置、編曆報時業を確立。 昭和3年 退官、東京帝大名誉教授に。 昭和20年5月25日 麻布天文台全焼、又三鷹天文台一軒に灰燼に帰す。	月. 40-5, p.15 (昭22/1947)	17
20	ホバーク天文台長 F. Zwicky (新星の研究者) 及 W. Wooley (恒星スベリの研究家) の来日 (昭戦直後)	科学史研 才17号	18409
20	米ハーバート天文台長 Dimitroff の来日 (昭戦直後)	科学史研究 才17号	18408
20 8 15	終戦		

昭和	要 項	出 典	頁 次
21 (1946)			
21. 4. 1.	東京天文台官制中左、画リ改正ス 才三條中「台長 技師專任 11人 奏任、書記專任2人附任、 技師專任 19人附任」ヲ「台長 文部技官專任 11人ニ改メ、 專任 19人ニ改メ、文部事務官專任 2人ニ改メ」ニ改ム 勅令才207号	天文台関係全集	1400P
21.	勅令(政令)1:53人事、勅令 台長 文部技官 2級 11 3級 19、文部事務官 3級 2	天文台関係法令集	14010
21. 7	東京天文台長 岡口豊吉博士 7月30日に停年退官 新に東京 教授 萩原雄祐博士が東京天文台長に。	月. 40-1, p.1 (昭22-1)	536
21. 9	7月東京天文台長が更迭 : 岡口 豊吉(才4代) → 萩原雄祐 (才5代)	科学史研究 才17号	18410
21	夏時刻法 はじめて制定採用(国会を通じ閣議決定)は 解不政改の東京天文学教授	科学史研究 才17号	18411
21	日本天文学会、国立科学博物館の共同主催で「天文普及議 座」を演説	科学史研究 才17号	18413
21	官本正太郎の 東京天文学教授	科学史研究 才17号	18412
21 1	啓蒙年表(昭和21年版)発行		
10	3棟(計57坪)のバラック庁舎完成		

昭和	要 項	出 典	頁 次
22 (1947)			
22. 4. 19.	萩原雄祐が4月19日の日本天文学会総会で「今後の日本に於 ける天文学の動向」を講演	科学史研究 才17号	18420
22. 11. 14	本回 空の 11月14日烏雲に本回彗星を衆見	科学史研究 才17号	18419
22	東京天文台で「レシー」により流星を観測(主任 古畑正敏)	科学史研究 才17号	18418
22	東京大学天文学教室の再建に着手、麻布館舎に太陽分光儀の 装置を再設	科学史研究 才17号	18417
22	東京天文台より標準周波数電波による分秒報時の連続発信 を開始	科学史研究 才17号	18416
22	日本天文学会で機関誌「天文月報」を才40巻より再刊	科学史研究 才17号	18423
22	文部省編：空の星と私たち(中学校 国定教科書)	科学史研究 才17号	18422
22	日本天文学研究会の創立(主宰は 神田茂)	科学史研究 才17号	18415
22	日本天文学研究会の機関誌「天文総報」を再刊	科学史研究 才17号	18421
22	理科年表 昭和23年度の理科年表、印刷は12月11日、年10 に発行するよう努力中。昭和22年度のものに追加し、一層 理科教育の資料として役立つよう心掛ける。追加項目 詳細あり。厚部、天文部、理学部、物理化学部、地学部等	月. 40-8, p.32 (昭22)	1005
22 10	東京帝国大学は東京大学改称	天文台100周年年表上	
22	20+クラブ 紙版観測	"	
22	天文短編報告(アランチ)才2輯 発刊	"	

年	和	季	項	出	冊	カド%
23	(1948)					
23	5	9	礼文島に金環日食、天文・気象・地磁気・電離層等の研究観測隊が布陣。(成功 礼文島) カマノ天文台100周年誌	科学史研究	第17号	18425
23			金環日食観測のため米地理学会より観測隊が来日	科学史研究	第17号	18427
23			大瀬秀雄(東京天文台技師)の掩蔽観測結果により金直線偏差を予報し、礼文島の金環食の際これを実証(これにより大陸間の経度差測量法を解明)	科学史研究	第17号	18428
23	6	4	本田 寛が6月4日に本田才三彗星を発見	科学史研究	第17号	18429
23	6	14	本田新二が死去(日本の天文学普及教育に業績)	科学史研究	第17号	18430
23			スバルトロヘリオスコフと口径18cm F/0.95のシュミットカメラが東京天文台に新設。	月41-7, p.40 (昭23)		5037
23			スバルトロヘリオスコフと口径18cm F/0.95のシュミットカメラが東京天文台に新設された。一月報=コース欄一	月41-7, p.40 (昭23)		5036
23			東京天文台でスバルトロヘリオスコフ及び18cmシュミットカメラを新設	科学史研究	第17号	18424
23			東京天文台 野附誠一等の乗鞍岳で太陽コロナの常時観測に成功	科学史研究	第17号	18426
23			乗鞍観測紀行(1) (乗鞍山頂コナ観測隊 報告) コナグラフの設計、製作、組立。野附誠指導の下に水田清、大沢、名取、三谷が参加。7月15日 コナグラフその他の荷物を高山平に発送。7月24日 観測隊員5名高山を出発。7月末 観測が完了。	月41-12, p.94 (昭23)		5039
23			東京天文台 野附誠一行5名 新設のコナグラフを携えて7月中旬以降海拔3000mの乗鞍岳の頂上で試験観測を行った。	月41-9, p.56 (昭23, 昭22, 昭21)		5038
23			戦後最初の国際天文同盟総会が8月にチューリッヒで開催(日本にも招請があったが参加の機会に恵まれず)	科学史研究	第17号	18432
23	8	7	神田 清が8月7日に死去(前滿洲観象台技師、彗星の観測研究に業績)	科学史研究	第17号	18431
23			日本天文学会編:天文学叢書2巻刊	科学史研究	第17号	18433
23	12	4	本田寛が12月4日本田才三彗星を発見	科学史研究	第17号	18429
23	6	11	和合(政令)1183 人事 技師技官2級18, 3級23	天文台関係法令集		14010
23	7	1	人事 技師技官2級15, 3級28	天文台関係法令集		14010
23			天文台の工業 天体観測地学委員会、三訂国際観測所。観測研究の南極人員、施設の改善	東洋大学一覽,昭30-33		16002
23			教官制の確立 (以前は技官制:大学一覽昭26,27,28)	東洋大学一覽 昭30,33		16060
23			電波研究所の協力により東京天文台で200cmヘリウム太陽電波の観測が開始された。日本の宇宙電波 森本雅樹	月41-1, p.7 (昭46)		5213

昭和	要 項	出 典	ナカ
23 (1948)			
23 4	分秒報時試験放送開始	天正台100年略年表	
23 6	境散特別観測事業開始	"	
23 7	国際報時T台を合併	"	
23 8	報時室の新築より分秒報時(JJY)正式放送を1日に開始		

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp